

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業振興費

事業名 6次産業化推進事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産物流通課 地産地消係 電話番号：058-272-1111(内4066)

E-mail：c11444@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 5,000 千円 (前年度予算額：5,000 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	5,000	5,000	0	0	0	0	0	0	0
要求額	5,000	5,000	0	0	0	0	0	0	0
決定額	5,000	5,000	0	0	0	0	0	0	0

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

・農山村の所得や雇用を増大し、地域活力の向上を図るため、地域の農林水産物や資源を活用した6次産業化、農商工連携、地産地消の取組を面的に拡大していくことが必要である。

・このため、地域の創意工夫を生かしながら農林漁業者と食品事業者、流通業者等の多様な事業者が連携し、ネットワークを構築して取り組む6次産業化等の取組を支援する

(2) 事業内容

【補助対象】

- ① 2次・3次産業と連携した加工・直売の推進
- ② 新商品開発・販路開拓の実施
- ③ 直売所の売り上げ向上に向けた多様な取組
- ④ 多様な地域資源を様々な分野で活用する取組
- ⑤ 多様な地域資源を活用した研究開発・成果利用の取組

【補助対象者】

農林漁業者等、商工業者の組織する団体、民間事業者、市町村

【補助率】

- ① ～④の取組 1 / 2 以内
 - ⑤の取組 定額
- いずれの場合についても国費上限額は500万円

(3) 県負担・補助率の考え方

国庫支出金を財源とし、県負担はない。
補助率は国の要綱に準拠。

(4) 類似事業の有無

無し

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	5,000	地域が連携したネットワーク化による6次産業化の取組を支援
合計	5,000	

決定額の考え方

--

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

ぎふ農業・農村基本計画

(2) 安心して身近な「ぎふの食」づくり

①地産地消県民運動の展開

地域資源を活用した6次産業化の推進

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

○ぎふ農業・農村基本計画

農産物の付加価値を高め、農業者の所得向上に繋げるため、農業者自らによる加工・販売や商工業者と連携した魅力ある商品開発など「農業の6次産業化」を一層進める。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R元)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R7)	達成率
① 6次産業化法に基づく総合化事業計画の認定事業者数（累計）	93	101	108	110	111	91%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	（取組内容） ・新商品開発に向けた試作品の評価及び改善 （成果） ・生産者と食品製造業者が連携した商品開発を実施。
	指標① 目標：98 実績：95 達成率：97 %
令和3年度	令和3年度は実施なし
	指標① 目標：102 実績：98 達成率：96 %
令和4年度	（取組内容） ・新商品開発に向けた試作品の評価及び改善 ・新たな加工品開発に向けた調査及び登録の取得 （成果） ・生産者と地域の販売事業者等が連携し、商品開発・販路開拓を実施。 ・加工の原材料調査を実施し、新たな商品開発の研究、販路開拓に取り組んだ。
	指標① 目標：106 実績：101 達成率：95 %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない 	
(評価) 3	6次産業化の取組みにより経営の向上を目指す意欲的な農業者が多く、新商品開発に必要な調査や人材育成に対する行政支援のニーズが高まっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	新商品の試作、パッケージデザインの開発、成分分析等の実施により、需要に即した新商品開発につながっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている 	
(評価) 2	新商品販売前に調査・分析等を実施することが、試作を積み重ね魅力ある商品開発につながるため、効率化が図られている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 消費者の認知度が低い商品、計画どおりに売上げが伸びていない商品に対応するため、消費者ニーズを的確に捉え、ターゲットを明確にした商品開発力、戦略的な販路の開拓力、プロモーションの不足などが課題である。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 6次産業化に取り組む農業者が開発した商品を販売する施設の整備や多様な事業者ネットワークの構築による県産農産物の高付加価値化を進め、本県の主要農産物の生産振興や産地競争力の強化を図る。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由 や期待する効果 など	